

15/01/2020 Wed

語学学校も3日目ですが、朝遅刻することもなく、体調を崩す生徒もなく、予想以上にみんなしっかりとやっています。私も予想していなかった気温の低さで、真夏というのにおそらくここまで20度を越えたのは昨日ぐらいだと思います。

本日の午後のアクティビティのタイトルは "Walk to Alexander Turnbull Library"。図書館訪問？何か特別な仕掛けでもあるのかと、期待半分不安半分で私も同行しました。実は国立図書館で、NZの歴史に関する重要な古文書がたくさん保管されている場所でした。

Alexander Turnbull Library (国立図書館)

とりあえず楽しそうに入っていきます



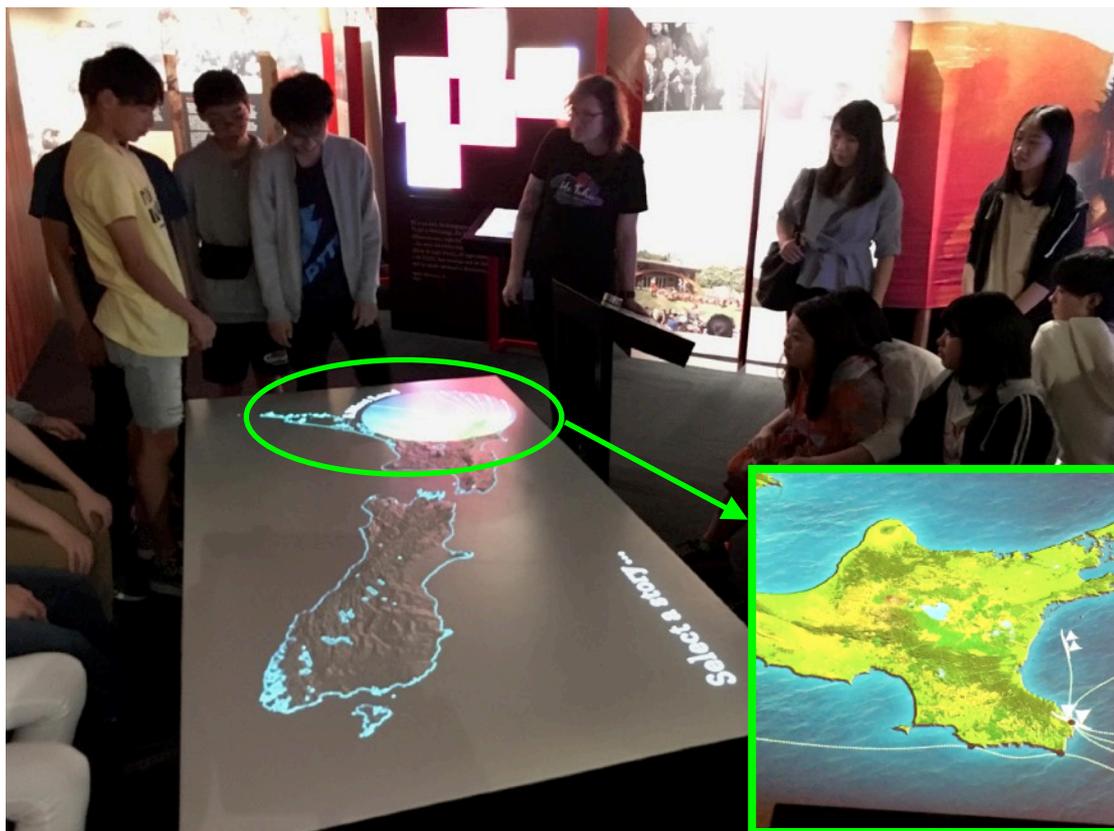
本日もガイドをしてくださる図書館員さんが2名ついてくださり、私やOKC日本人スタッフが生徒が理解するのに難しそうな箇所を通訳して行きました。

こちらのお二人です

本日の解説員さんからのご挨拶



今日のガイドでは、NZが国家として成立して行くまでの歴史に焦点を当てて説明を進めてくれました。まずは、NZの全島が立体的に模られた台座にレーザー映像を投影し、マオリがこの島にたどり着いて居住箇所を広げて行く様子や、ヨーロッパからの入植者が入ってくる経路などを見せてくれました。



この機器は、動画で様々な資料を見せてくれます。例えば先住民マオリが、どの時期にどのくらいの時間をかけて島にたどり着き、居住地を移動させて行ったのかが一目でわかります。

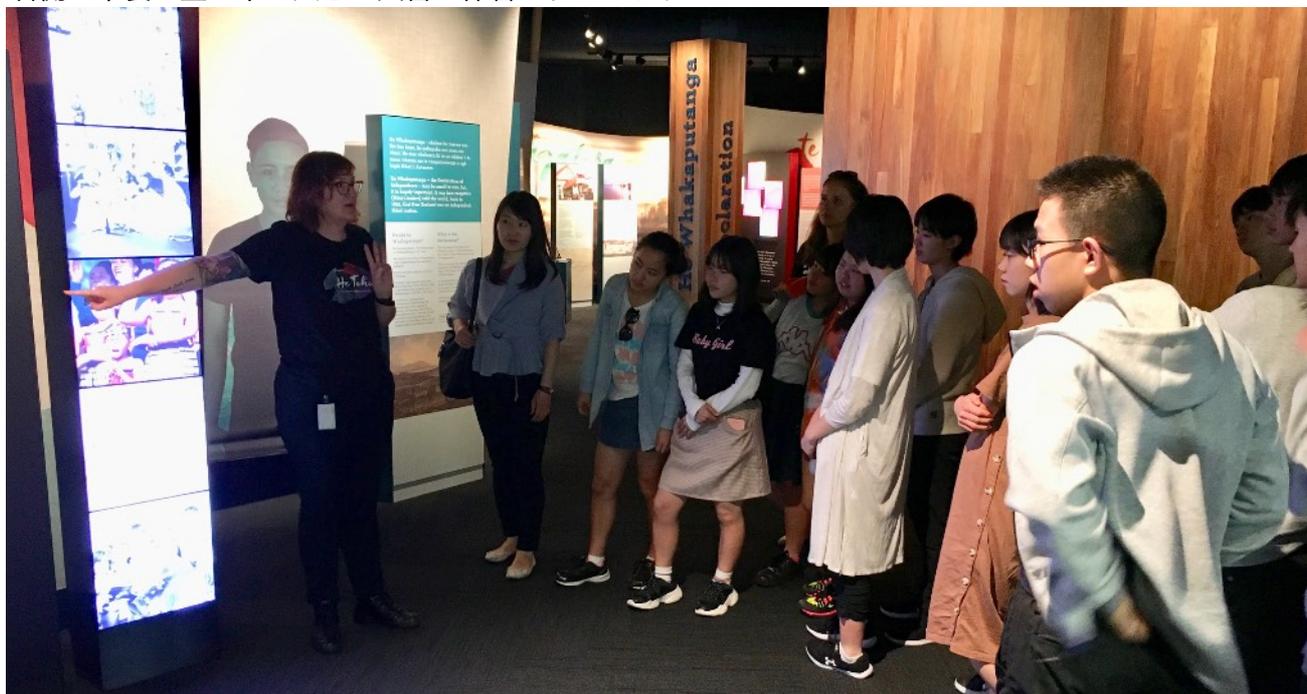
↓



日本の鎌倉時代あたりから始まり、マオリの定住とコミュニティの拡大や衝突、ヨーロッパ人の入植とマオリによる独立宣言、イギリスの進出とマオリとの戦い、マオリとイギリスの間で締結されたワイタンギ条約というあたりまでを、かなり理解しやすいビジュアルでまとめてくれていると思いました。

一通りの説明を終えると、ちょっとおしゃれな感じの木のドームの中へと案内されました。中は照明が落とされているのですが、ここはマオリによる独立宣言やワイタンギ条約の文書が展示されているスペースで、重要文書を保護するために極力光を当てずに済むように配慮されています。文書を見たいときは、ボタンを押せば一定時間照明が当たるようになっていました。

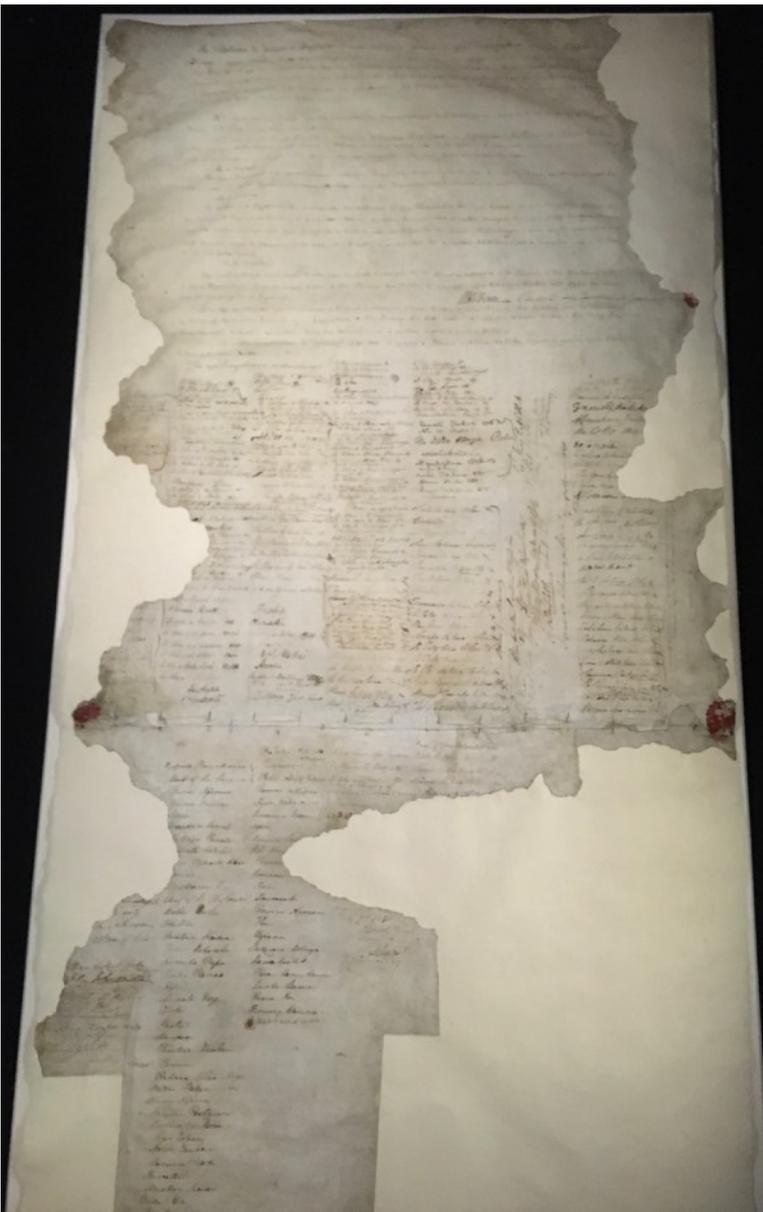
右側の木製の壁の中に入ると文書が保管されています



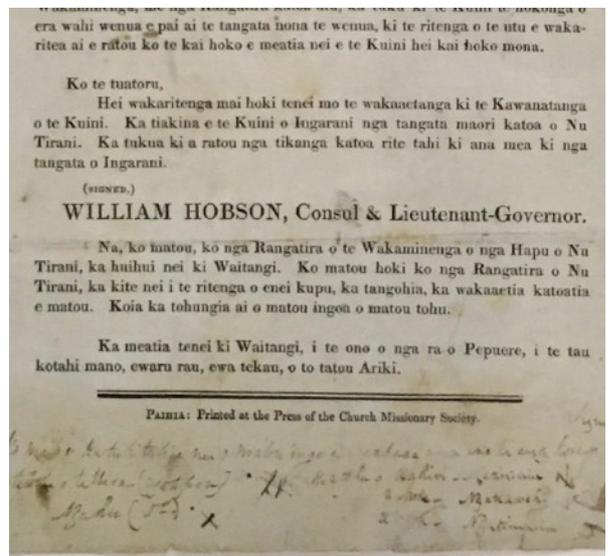
内側はとても神聖な雰囲気にあふれていました



Treaty of Waitangi (ワイタンギ条約)
動物の皮に書かれているのだそうです



マオリ語版(上)と英語版(下)
記述内容が微妙に異なり、後々まで問題が残ったのだそうです



外に出るときに、こういう神聖な場所に入った後は、出るときに水を指先につけて指で弾くよう体にふりかけるのがマオリの伝統なのよ、と解説員さんが教えてください、早速みんなで見よう見まねでやってみます。下の写真の壁が波打っているように見えるのがわかると思いますが、これも水面に物が落ちて波紋が広がる様子を表しているようで、水はNZ社会全体を表し、波紋はそこに入ってくる様々なものの融合と広がりを象徴しているのだそうです。

まずは指先に水をつけ

全身に弾き飛ばすようにします



月曜日のTe Papaの解説員さんも、「世界で初めて女性に参政権（投票権）を与えたのはNZなんだぞ」と繰り返し、1893年を何度も復唱させられました（笑）が、当然ここにも、その重要人物に関する資料があります。運動の中心人物であり、現在10ドル紙幣にその肖像が描かれているKate Sheppard（ケイト・シェパード）女史の等身大モニュメントが展示され、その功績が記されていました。



Libraryを後にして、すぐ隣にあるNZの国会議事堂を訪れました。基本的に入場は自由で内部見学ツアーも毎日のように実施されています。議事堂のすぐ前の芝生は、日光浴や読書などでくつろぐ人たちや、昼時ともなればランチをとる人たちで溢れており、NZらしい光景だと思います。



国会議事堂をバックに記念撮影



気分は公園です



外に出て芝生を見ると、急にそわそわして体を動かし始めました。こういうところは可愛い15歳ですね。英語漬けで疲れた頭と体をここでリフレッシュして、また明日から頑張っていきましょう。

